

Daily Macro Economic Insights

国際収支統計(2025年3月): 経常収支は若干の減少

PwC Intelligence シニアエコノミスト 伊藤 篤
チーフエコノミスト、上席執行役員 片岡 剛士



輸出の落ち込みにより、経常収支は減少

財務省から、2025年3月の国際収支統計が公表された。3月の経常収支(季節調整値、以下同)は、2兆7,231億円(前月比-1,831億円)と減少した(図表1)。原数値では+3兆6,781億円(前年同月比+2,303億円)となった。

輸出(原数値)は9兆5,591億円(前年同月比+1,686億円)と増加した。商品別には自動車、半導体等製造装置、非鉄金属が増加した。地域別では対アジア・中東向けで増加した。輸入(原数値)は9兆427億円(同+1,156億円)と増加した。商品別では医薬品、通信機、衣類・同付属品が増加した。地域別ではアジア、西欧からの輸入が増加した。原油価格(財務省算出値)は、ドルベースでは79.49米ドル/バレル(前年同月比-4.3%)、円ベースでは7万4,771円/キロリットル(同-4.3%)とそれぞれ減少した。

原数値でみたサービス収支は3月に-192億円(前年比-147億円)となった。3月の訪日外国人旅行者数は349万7,600人(前年比+13.5%)、出国日本人数は142万3,400人(前年比+16.7%)となっており、その他サービス収支のマイナス幅拡大が寄与した。

原数値でみた第一次所得収支は、+3兆9,202億円(前月比+3,129億円)と増加した。直接投資収益のマイナス幅が拡大した。季節調整値では、+3兆7,356億円(前月比+3,966億円)となった。

季節調整済みでみると、第一次所得収支の拡大の一方、貿易収支・サービス収支のマイナス幅が拡大により経常収支は減少した。

図表1:経常収支(名目・季節調整値)の内訳

(単位:億円)

	経常収支	貿易・サービス収支						第一次 所得収支	第二次 所得収支		
		貿易収支									
			輸出	輸入			サービス収支				
2023年度	90,941	▲ 232,681	▲ 178,716	997,898	1,176,615	▲ 53,964	353,971	▲ 30,349			
2024年度	261,664	▲ 69,174	▲ 36,866	1,020,694	1,057,560	▲ 32,307	373,388	▲ 42,550			
2025年度	303,771	▲ 66,247	▲ 40,480	1,062,390	1,102,870	▲ 25,767	417,114	▲ 47,095			
	前年差	42,107	2,927	▲ 3,614	41,696	45,310	6,540	43,726	▲ 4,545		
2024年	1月	26,105	▲ 4,267	182	85,002	84,820	▲ 4,449	34,630	▲ 4,258		
	2月	17,195	▲ 10,550	▲ 6,975	83,916	90,891	▲ 3,575	30,999	▲ 3,254		
	3月	22,145	▲ 8,663	▲ 5,853	87,375	93,228	▲ 2,810	34,028	▲ 3,220		
	4月	25,784	▲ 5,801	▲ 4,249	85,642	89,891	▲ 1,552	35,330	▲ 3,746		
	5月	24,625	▲ 7,830	▲ 4,279	87,061	91,340	▲ 3,551	35,602	▲ 3,147		
	6月	21,497	▲ 6,752	▲ 4,030	89,542	93,571	▲ 2,722	32,135	▲ 3,886		
	7月	28,305	▲ 7,186	▲ 4,023	90,894	94,917	▲ 3,163	38,177	▲ 2,686		
	8月	29,670	▲ 4,651	▲ 2,322	87,612	89,934	▲ 2,329	38,808	▲ 4,487		
	9月	14,514	▲ 6,759	▲ 3,151	86,938	90,089	▲ 3,608	25,874	▲ 4,600		
	10月	23,545	▲ 1,772	▲ 1,452	87,677	89,129	▲ 321	30,051	▲ 4,734		
	11月	29,716	356	567	87,260	86,693	▲ 211	33,858	▲ 4,498		
	12月	28,823	190	704	90,353	89,648	▲ 514	32,527	▲ 3,894		
2025年	1月	20,339	▲ 16,631	▲ 15,356	84,986	100,342	▲ 1,276	41,046	▲ 4,076		
	2月	29,062	▲ 1,066	2,100	96,003	93,903	▲ 3,166	33,390	▲ 3,262		
	3月	27,231	▲ 5,685	▲ 2,202	90,289	92,491	▲ 3,483	37,356	▲ 4,439		
	前月差	▲ 1,831	▲ 4,619	▲ 4,302	▲ 5,714	▲ 1,412	▲ 317	3,966	▲ 1,177		

(出所) 財務省「国際収支状況」より筆者作成。

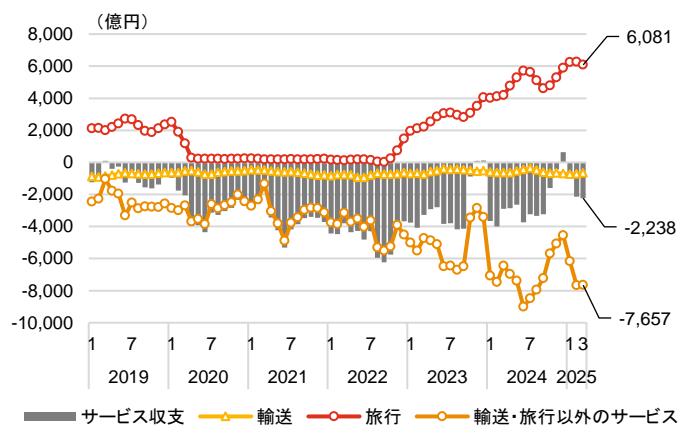
サービス収支は横ばい

貿易収支がマイナスであることが長期化する中、インバウンド需要、知的財産・デジタル関連の動向が注目されるサービス収支を確認しておこう。趨勢的な動きをみると、原数値を3か月移動平均でみたのが図表2である。3月のサービス収支は-2,238億円(前月比-101億円)とマイナス幅が拡大した。内訳をみると、旅行収支は+6,081億円(同一-180億円)と3か月連続で6,000億円台となった。知的財産・デジタル関連などを含む「輸送・旅行以外のサービス」収支は-7,657億円(同+20億円)とマイナス幅は大きくなっている。この「輸送・旅行以外のサービス」収支の内訳をみたのが図表3である。

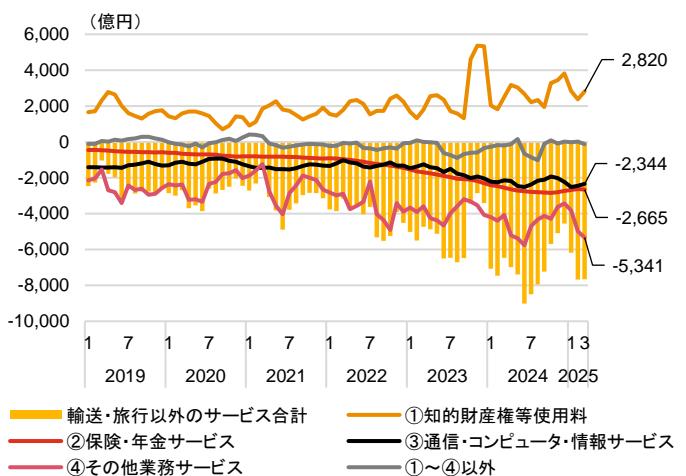
- ① 知的財産権等使用料の2019年から2022年の傾向をみると概ね+700億~+3,500億円程度で推移していた。3月は+2,820億円(同+455億円)となった。
- ② 2月の保険・年金サービスは、-2,665億円(前月比-39億円)となった。2019年1月の-453億円から、2024年10月の-2,748億円までほぼ一貫してマイナス幅が拡大していた。その後4か月連続でマイナス幅が縮小していたが、この傾向が変化したかどうかはより慎重に見極めるべきであろう。
- ③ デジタル関連とされる通信・コンピュータ・情報サービスは、-900億~-2,500億円程度の間で推移していた。3月は-2,344億円(同+104億円)となった。過去の傾向対比で大きめのマイナスが継続している。
- ④ その他業務サービスは、-1,200億~-5,500億円程度で推移していた。3月は-5,341億円(同-353億円)とマイナス幅が拡大した。この「その他業務サービス」の内訳を図表4でみると、3月の技術・貿易関連・その他業務は-1,039億円(前月比-2億円)と弱含みとなっている。研究開発は-1,420億円(同-62億円)となった。専門・経営コンサルティングは-2,205億円(同-22億円)となった。2021年以降のマイナス幅拡大傾向が継続している。

サービス収支は、旅行収支が高水準で横ばいで推移する中、輸送・旅行以外のサービスのマイナス幅拡大が押し下げる格好となっている。

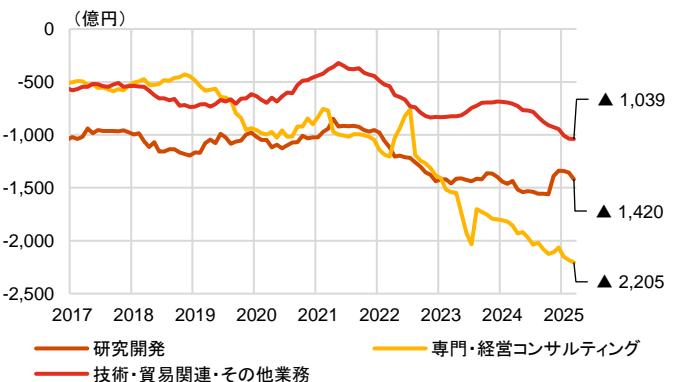
図表2: サービス収支の推移 (3か月移動平均)



図表3: 輸送・旅行以外のサービス収支推移 (3か月移動平均)



図表4: その他業務サービスの内訳 (12か月移動平均)



片岡 剛士

伊藤 篤

チーフエコノミスト、上席執行役員
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

シニアエコノミスト
PwC Intelligence

PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

(出所) 財務省「国際収支状況」、日本銀行「国際収支統計」より筆者作成。

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel:03-6257-0700